

ズバリ
直言

一般質問

「ここが聞きたい これを言いたい」

一般質問は、議員の日常活動と調査・研究、町民の声や自身の考え方をもとに、町長や教育長などの方針を問うものです。

8議員が登壇

町政を問う

一般質問事項

質問者	件名	頁
鈴木 久夫	1 危険な深小通学路に歩道設置を	7
	2 逆川の拾石川改修は早期再開を	
都築 一三	1 相見駅東西に町花と木の植林を	8
	2 コロナ撲滅啓発運動を提案する	
水野千代子	1 森林浴を活かして健康増進を	9
	2 園で使用済み紙おむつ処理を	
足立 初雄	1 幸田町を美しい町にする考えは	10
	2 楽しみながら歩ける施策を	
黒木 一	1 国民健康保険運営に危機感を	11
	2 交通マスタープランの進捗は	
丸山千代子	1 インフルエンザワクチン助成を	12
	2 感染症にも強い少人数学級を	
廣野 房男	1 里山整備事業に町からの支援を	13
	2 安全で効率的な通学路の設定を	
田境 毅	1 コロナ禍の防災組織維持強化を	14
	2 健康増進は独自性高い取り組みを	

質問者、答弁者それぞれ30分以内の制限時間。
議会だよりでは、質問と答弁を要約しています。

私が毎回傍聴する理由は、質問がどこまで深く掘り下げられているかや、議場全体の雰囲気などの



野場 手嶋 修さん

長年議会を傍聴して

ようなものかを知る為です。議員各位は地元愛に徹し、住民の意見や要望、町の諸課題について真剣に調査研究しておられることが質問からよく解る。答弁ではトーンの大小はあれ「前向きに検討する」とよく言われる。すばらしい成果だと思いが、通常の議員活動も含め実成果がどれほどかはよく解らない。全町民の皆さんに解り易く積極的に報告し、議会と町民の絆をもっと太くして頂きたい。このご時世であるがゆえに……。



鈴木 久夫 議員

危険な深小通学路に歩道設置を

答 来年度工事完了を鋭意促進する



深溝小学校に通う児童たち

危険な道路を整備し、高齢者や子どもの安全確保などを問う。

町の未整備路線の現状は。

答 **建設部長** 整備すべき路線は、多数存在すると認識している。

問 住宅密集地の多くは、道幅も狭く、緊急車両も入れないなど、不便な道路が存在している。

今後の整備は。

答 第6次総合計画のローリングプランや、地元要望に基づく路線整備で対応していく。

問 即効性のある打開策として、歩行者や車両の退避スペースを設けるなど、整備の手法には。

答 それぞれの路線に適した整備を、積極的かつ迅速に進める。

問 町民への税の還元からも、積極的な予算確保を。

答 税の還元意識を持って、地域バランスや周辺状況を鑑み、可能な箇所から整備を進める。

問 深溝小学校の正門前は、急カーブで急坂な道路交差で、通学路として危険である。

来年度には、歩道設置を含めた整備の完了を。

答 **町長** 来年度、単年度における工事の完了というような形で鋭意促進する。

問 逆川の拾石川改修は早期再開を

答 用地取得の調整を県と進める

逆川地内で中断された、河川改修を指摘し、事業再開に向けた方針などを問う。

問 逆川地内の拾石川未改修箇所の現状は。

答 **建設部長** 大久後橋から大坪橋まで約630m、および宮前橋前後約330mの区間。

問 河川上流部の住宅などは、昭和49年の七夕豪雨により、床上浸水の被害を受け、現在も未改修の状態である。

下流部の工場等付近も、護岸崩壊など危険性があるが、大丈夫なのか。

答 近年の激甚化・頻発化する降雨災害に備えるため、早期整備が必要と考えており、引き続き県へ積極的な要望をしていく。

問 河川改修事業は、何故中断されたのか。

答 限られた予算の中、毎年度、安定的に予算の確保が難しく、平成30年度令和元年度と予算措置がされていないため。

問 逆川地内の拾石川改修に向け、早期に事業の再開を。

答 町としても用地取得に必要な、地元調整などを県とともに進めていく。現在、事業地区間の改修を終え次第、残る未改修区間の整備に着手していく予定。

一般質問



つづき かずみ
都築 一三 議員



相見駅東口のモニュメント

問 相見駅東西に町花と木の植林を

答 形状変更は避けたい

観光予算の増加で幸田町を知ってもらう施策を。

問 浄土寺家忠日記・戦国御膳の体験は。

答 町長 3回行っている。

問 昨年の花火の決算は。

答 教育部長 手筒花火と小型花火など、合計19万6000円。

問 コロナ後、棧敷席販売で1時間位の花火大会を提案する。

答 費用面や保安距離などで、現状できない。

問 本光寺椿郷の二子侘助(椿)やヤマザクラを相見駅東西に植林と観光看板を。

答 建設部長 日本公園緑地協会会長賞を受けた相見駅前デザインの一部分であることから、植林などの形状変更は避けたい。

問 町の花と木の指定日を幸田町概要に。

答 企画部長 平成30年1月1日発行の町勢要覧に掲載。

問 相見駅の開業日は。平成24年3月17日。

問 乗降客増加の推移は。

答 平成24年度1552人

問 令和元年度3260人で約2倍。

問 合併60周年の決算は。

答 2000万円ほど。

問 70周年の計画は。

答 具体的な内容は決まっていない。

問 名誉町民の人数は。

答 6人。

問 加藤登紀子さんの歌の有効活用は。

答 庁舎で昼の休憩時に放送している。

問 道の駅売り上げアップは。

答 環境経済部長 今年度は、県内のテレビ局で特番などで紹介され、放送後すぐに筆柿ゼリーは売り切れた。

今後も、全国の道の駅の成功事例など調査、研究していく。

問 コロナ撲滅啓発運動を提案する

答 基本的には考えていない

町の感染者6人、これ以上出さない為の施策提案を問う。

問 岡崎署管内の青パトの台数は。

答 総務部長 241台である。

問 10年前と比較して犯罪件数の減少は。

答 平成22年の刑法犯501件。令和元年209件。半数以下に減少。

問 町内の青パトの内メロパトの台数は。

答 27台中8台である。

問 CDを作りコロナ撲滅啓発運動を提案するが。

答 健康福祉部長 基本的には、メロディーパトでの啓発は考えていない。



みずのちよこ 水野千代子 議員

問 森林浴を活かして健康増進を

答 健康管理の施策を進めていく

問 健康の町を宣言して32年、人生100年時代と言われ、健康は誰も望むことから以下を問う。

問 町内の健康経営認定を受けている企業は。

答 〔健康福祉部長〕 デンソー、エアウィーヴ、コバテック、矢作産業、新東工業など。

問 企業表彰している自治体は。

答 県内では、刈谷市、豊田市、津島市、東海市。

問 林道伐岩線、研山支線など、健康の道に位置づけを。

答 今のところ考えていないが、ルートの周知に努める。

問 山頂付近にトイレの設置。ベンチの増設を。

答 天の丸のトイレが使用可能になり、周知していく。ベンチは設置を考えていきたい。

問 近隣市の登山道を含め健康の道の延伸を。

答 延伸は考えていないが、周知に努める。

問 遠望峰山、健康の道、山頂の施設、認定企業などと連携し、森林浴の効果を活かして健康増進の



遠望峰山から見る幸田町

問 〔町長〕 今後も健康管理の施策を積極的に進めていく。

答 事業を。

問 園で使用済み紙おむつ処理を調整していき

環境省は令和2年3月、「使用済み紙おむつの再生利用等に関するガイドライン」を出している。

問 町内の一般廃棄物に占める使用済み紙おむつの割合は。

答 〔環境経済部長〕 分析を実施していないため不明だが、環境省のガイドラ

インから推計すると、2015年度で239t、367t。2030年度では、505t〜543tになる。

問 全国で再生利用している自治体は。

答 鹿児島県志布志市と鳥取県伯耆町。

問 再生利用の考えは。

答 今後、ごみ減量化や資源化の一つの方法として調査・研究をしていきたい。

問 保育園の3歳未満児数と使用済み紙おむつ処理の現状は。

答 〔住民子ども部長〕 213人。保護者が、お迎えの時に持ち帰る。

問 保育園内で処理すると予算は。

答 年間で640万円程度になる。

問 県内で処理している自治体は。

答 名古屋市、みよし市、豊田市、刈谷市。

問 保育園内で使用済み紙おむつの処理を調整していき

一般質問

問 幸田町を美しい町にする考えは

答 総合計画の中の新しいテーマに



あだち はつお 足立初雄 議員



もぐら除けのヒガンバナが景観形成

問 ロケッテリズム事業の目的は。
答 環境経済部長 幸田町
のタウンプロモーション。

幸田町に来た人には、ファンになってもらい、町民は全国的知名度アップによる、地元への誇り

や郷土愛を持ってもらう事。

問 遊休農地に景観作物などの栽培推進の考えは。

答 多面的機能支払交付金事業の活動メニューの中の、景観形成作物の植栽活動を支援する。

問 農業、生活、美観へのへい害となる外来植物の駆除はどのように。

答 ホームページに掲載し注意喚起していく。

問 花いっぱい運動で植栽された所の管理は。

答 行政区が主体となって維持管理をお願いしている。

問 今後、都市化が進むが、緑の保全是大丈夫か。

答 建設部長 緑地や森林の保全地区も位置づけ、自然との調和を図る。

問 歩道や中央分離帯の草の駆除は。
答 土木課親切班での対応

シルバー人材センターへの委託、また地元ボランティアで対応している。

問 住み良い町、観光に訪れたい美しい町にするビジョン構築の考えは。

答 町長 総合計画の中で、新しいテーマとして取り上げていく。

問 楽しみながら歩ける施策を

答 健康な町づくりを積極的に推進

今年度の予算は、多世代が豊かに暮らせる町を目指すとしているが、その要素の一つである健康で暮らしやすい環境づくりを問う。

問 健康の道を、子どもや高齢の人でも、気軽に安心して、ウォーキングを楽しめる道にする考えは。

答 健康福祉部長 舗装などの道路整備を進め、更

に入りやすい健康の道にする。

問 天の丸のトイレを利用できるようになったが、今後問題の解決と、町民への周知を。

答 トイレが使える事を、看板設置と町のパンフレットで表示する。

問 京ヶ峰、水晶山など町の周囲にある山を、ハイキングコースに整備する考えは。

答 今後整備を行う場合は、すでに行なわれている取り組み事例を参考に、地主、地元利用者と一緒になって、取り組んでいきたい。

問 心身共に健康で暮らせる街にするため、楽しみながら歩ける施策を。

答 町長 ウォーキングの動機づけになるような町づくりの施策を、今後とも積極的に推進する。

一般質問

9月定例会のあらまし

令和元年度決算

一般質問

第2回臨時会

意見書提出

委員会レポート

特集

あいさつ・マイタウン



黒木 一 議員

問 国民健康保険運営に危機感を

答 医療費抑制施策を展開していく

国民健康保険が担う、医療費も増加一途になっている。保険税収入も、危機感を募らせている。町民が、平等に医療が受けられ、健康で安全、安心な生活が出来る様、制度の検討が必要ではないか。今後の対応を問う。

問 被保険者数の推移は。前期高齢者数の推移は。

答 〔健康福祉部長〕 前年は、7439人で減少傾向、うち、前期高齢者は、3609人で約2%増。

問 全体の医療費、対する前期高齢者の医療費の推移と割合の変動は。

答 医療費総額は、約25億500万円、うち前期高齢者約15億3800万円の61.4%の増加傾向。

問 保険税収納額および収納率の推移。一人当りの平均年税額の推移は。

答 前年は、約7億2700万円と減少傾向で、収納率は、95%前後。一人当たりは、10万3747円。

問 保険税収入の他に、収入は。また、それで運営は。

答 県の交付金などがある。

問 が、運営は難しい状態。赤字の補填は。無しの場合の収支状況は。

答 不足分は繰越金、一般会計繰入金、基金取り崩しで赤字分をカバー。

問 国民健康保険は今後も不足は続く予想か。また、対策は。

答 今年度は、基金の取り崩しをし、医療費抑制施策を展開していく。

問 事業展開のPRは。健康増進事業などと連携し、HPや広報でPR。

問 新型コロナウイルスの医療費は、どの位か。

答 医療費の7割を国保が負担し、残り3割は、県が公費医療負担する。



夜の運動教室でソーシャルディスタンスをとって健康に

問 交通マスタープランの進捗は

答 デマンド型交通の導入を示した

問 昨年9月の一般質問で、町民の声があり、再度問う。「えこたんバス」の町民アンケートの結果と対応は。

答 〔企画部長〕 路線数の増運行時間帯の延長、バス停の増などの要望に対し、改善に至っていない。

問 交通マスタープランの進捗状況は。

答 制定から10年経過、昨年度、中間見直しをし、デマンド型交通の導入などを示した。

問 幸田駅の整備で、JR東海との打合せ状況は。

答 駅ホームの改修など協議をしているが、具体的な回答はない。

一般質問

問 インフルエンザワクチン助成を

答 60歳から64歳までを考えている



丸山 千代子 議員

秋から冬にかけて新型コロナウイルスインフルエンザ感染症とインフルエンザが、同時に流行する恐れがある。新型コロナウイルス対策として、インフルエンザワクチン接種助成を問う。

問 新型コロナウイルスインフルエンザは発熱やせきなど初期症状がよく似ている。同時流行の対応・備えは、

答 **〔健康福祉部長〕** 一般社団法人日本感染症学会は、積極的に双方の検査を行うように提言している。予防接種を受けるように呼びかけていく。

問 保健所の体制強化でPCR検査の拡充を求めるべきではないか。医師会などの協力で検査が受けられるよう拡充を。

答 岡崎市医師会と西尾保健所で契約を結んだ上で、市民のPCR検査を岡崎市医師会ができるかどうかを検討中である。

問 コロナ対策としてインフルエンザワクチン助成を。

答 **〔町長〕** 基礎疾患のある60歳から64歳までの助成拡大を考えている。

問 感染症にも強い少人数学級を

答 非常にハードルが高いと認識

新型コロナウイルス対策の「新しい生活様式」では、身体的距離を確保するため2m空けるとしている。公立小中学校の学級編成は40人学級となっている。

問 コロナの時代、感染症にも強い少人数学級を問う。

答 現行の40人学級でソーシャルディスタンスの確保は、

頻繁な換気などをして、現場の状況に応じて柔軟に対応している。

問 35人学級にした場合の普通教室不足数は、

答 幸田小学校で3教室、幸田中学校、北部中学校でそれぞれ2教室が不足

それ以外は、現状35人学級になっている。

問 少人数学級の実現をという声と運動が広がっている。

答 今すぐその方向に切り替える現況ではない。

問 40人学級では感染予防もできない。一人一人に手厚く接することができない少人数学級の実施を。

答 児童生徒数が増えている中でこのさらなる増築は非常にハードルが高いと認識している。



荻谷小学校

ソーシャルディスタンスを保つ



坂崎小学校



ひろの ふさお 廣野 房男 議員

問 里山整備事業に町からの支援を

答 全国の事例を収集して研究する



遊休農地を再生する若者（六栗区）

問 今いる人と、今ある自然を使い、地域の活性化に繋げる「地元学」を実践するため、遊休農地の再生と、里山の復活に向け支援を望む。

答 非農家の人が、就農困難農家を手伝う農業に、法的問題はないか。

環境経済部長 賃借な

問 どの権利設定でなく、農作業の補助的受託や手伝いなら問題ない。

答 農地利用の最適化とは何か。

答 担い手への農地利用の集積・集約化。遊休農地の発生防止・解消。新規参入の促進による農地などの利用の効率化および

高度化を行うこと。

問 町主導の耕作放棄地解消に、新しい施策は。

答 町長 農家資格のない方も関わりながら、町の景観形成、社会貢献活動にも繋がる仕組みづくりをバックアップしたい。

問 林道（山の道）開設実現に向け、どんなステップを踏めば良いのか。

答 環境経済部長 林道として県の地域森林計画に位置付けられるよう、調整を進める。

問 地元が進める里山の整備事業に、町から補助金などの支援を。

答 全国の事例などを情報収集し、調査・研究していく。

問 安全で効率的な通学路の設定を

答 交通安全など安全面を優先し設定

問 歩車道の区別がある道路や、交通量の少ない道路など、安全面を優先して設定する。

答 教育部長 歩車道の区別がある道路や、交通量の少ない道路など、安全面を優先して設定する。

問 県道蒲郡碧南線の拡幅工事完成予定は。

答 建設部長 来年度以降用地取得に着手予定。工事は用地取得状況、予算を見ながら進められる。

問 県道幸田幡豆線で、歩道が造られていない所があるが何故か。

答 沿線には家屋が連担し、移転の影響が大きいことなどが、進まない理由と推察される。

問 上六栗交差点付近で、死亡事故が起きている。事故原因に対して、有効な対策をしたのか。

答 道路側溝を蓋つきのものに改良された。

問 県道幸田幡豆線の歩道の併設と、交差点改良工事を前に進めて欲しい。

答 県道蒲郡碧南線の完了後の事業化を目指し、県と協議・検討していく。

問 登下校中の交通事故が、全国的に毎日のように起きている。

答 悲惨な事故を防ぐ、道路環境を造るのは、行政の責任である。

安心・安全な通学路の構

一般質問



たきょう つよし 田境 毅 議員

問 コロナ禍の防災組織維持強化を

答 動画による教育訓練と啓発配信



防災リーダー研修（中央公民館）

機材の追加配備や災害支援協力の締結が進むなかで、新しい生活様式を踏まえた取り組みなどを問う。

問 避難所運営での新型コロナウイルス感染症感染確認の在り方や運用、感染者への周知方法と課題

など。

答 **総務部長** 手指消毒

検温、健康チェック表で確認。長く続く場合は衛生管理・健康管理を継続。保健所から、感染者などに対し個々に災害時の避難を周知・説明する。偏見や差別への対応に配慮する。

問 避難所運営マニュアルなどで訓練を伴うものを動画にする考え、コロナ禍の防災組織の維持強化を。

答 動画による教育訓練の周知と啓発、配信を検討。遊水地完成までの取り組みと課題は。

問 気象庁の雨量予測や広田川、相見川の水位状況を監視し対策をする。

答 南海トラフ地震に対する課題と対策は。耐震対策と避難所開設のマニュアルを整備。

問 ドライブレコーダーの申請状況および装置促進するしかけの考えは。

答 男性27人、女性11人。広報こうた10月号で、安全運転支援装置とドライブレコーダー設置補助制度の利用促進を掲載。

問 健康増進は独自性高い取組みを

答 健康づくり提案

医療サービスや社会インフラといった社会基盤に極めて重要になると考えている。

問 取り組み方針などは。

答 **健康福祉部長** 第2次健康こうた21計画で、生活習慣病の予防、健康寿命の延伸、生活の質向上を目指す。

問 進捗と課題や計画、町民および本町の先を見据

えたニーズは。

答 健康アンケート調査で達成状況は58・7%。20歳から64歳は脳血管疾患

の死亡率増加、未受診者が多い。ウォーキング環境、体育館の要望がある。**問** こうた健康の道の更なる可能性を引き出すなど施策は。

答 延伸ルートの活用で価値を高める。

問 町民一人一人が行動を起こすための施策は。

答 健康増進のスマートフォンアプリなど効果的に利用する。

問 健康増進は、独自性の高い取り組みと適宜棚卸し、住民にわかりやすい行財政運営を。

答 **町長** ーTを活用して健康づくりにつなげ、一人一人の主体的な健康づくりを具体的に実施できるメニューを提案する。